

ユーザーレポート ～0の証明～

USER REPORT

点呼業務効率化のためのシステムづくりを目指す

ナカウン株式会社

■ ナカウン株式会社

岡山県岡山市中区、同県の物流拠点となる岡山県トラックターミナル内に、ナカウン株式会社の本社がある。昭和21年創業の老舗企業で、岡山を拠点としてクレーン、運輸、観光バス、引越サービス、リース、倉庫、車検整備といった多角的な事業展開を行っている。

同社では幅広い業務を扱う中で「安全第一」「能率第二」という企業理念のもと、無事故・無災害を目指して安全衛生管理業務に取り組んでおり、顧客満足度の高いサービスを提供している。



運転手のモラルを高め、 顧客の信頼を得る

ナカウン株式会社では、グループ全体で11台のALC-PRO IIを導入、本社ではそのうちの3台を点呼業務で利用している。事業ごとに点呼記録を管理するシステムと連動するため独自のカスタマイズも行っているという。しかし同社の保有車両の約半数近くが現状アルコールチェックの義務がないクレーン。なぜ義務化の前にアルコール測定器の導入に至ったのか。

「アルコールチェックを行うことだけが目的ではなく、日々の点呼業務をしっかりとやっという事で検討をはじめました。義務化はされてなくても台数の多いクレーンも含めて全社的に取り組むことで、運転手のモラルを高めていくのが狙いでした。」(管理部 高杉部長)

また点呼業務での利用のために据え置きタイプのアルコール測定器が最適であったが、問題は「点呼業務の効率化が図れるかどうか」ということだった。

そこでシステムとの連動性やカスタマイズの柔軟性が必須条件となり、そこで目に留まったのが東海電子のALC-PRO IIだったという。「点呼業務の効率化ということが大前提でしたので難しい面もありましたが、ALC-PRO IIを見て“これならできる”と思い導入を決めました。」(高杉部長)

導入にあたって社員からは「一ヶ月のテスト期間を設けてほしい」との声があがったという。それまでは個人個人の裁量に任されていたのが、精度の高いアルコール測定にかかわることで不安があったようだ。

あるドライバーは言う。「最初は厳しく管理されているようで、慣れるまで抵抗を感じました。」

しかし同社ではテスト期間を一切設けず、導入した次の日から本格的な運用をはじめた。

「大切なのは経営者の姿勢、会社としての姿勢だと思います。消極的な意見に対して“それでもプロのドライバーか”と。今ではそれぞれが自覚をしており、正確なアルコール測定の必要性も感じているようです。」(高杉部長)

前述のドライバーも厳しいアルコール測定を日々行う中で飲酒に対する意識も変わったという。「次の日に仕事があるときは、アルコールの量を控えたり、出庫時間から逆算して飲む時間を考えるようになりました。わたしたちの仕事柄、飲酒をしていないということが前提でお客様との信頼関係が成り立っています。その意味でも毎日の測定で飲酒していないことを証明してお客様のところに行けますので、大きな自信になっています。」と胸を張る。



これからもナカウン株式会社は安全を第一に考えた理念のもと、社業の発展と地域社会の貢献を追求していこう。

ご利用機器

パソコン連動記録型測定器 | T点呼システム

ALC-PRO II Tenko PRO

取材ご協力

ナカウン株式会社

管理部 部長 高杉 陽 一様

〒703-8580
岡山市中区倉富340番地の18
TEL 086-277-4140(代)
FAX 086-276-5567
URL <http://www.nakaun.co.jp/>

